



現場視察・ヒアリング及び ガイドブックについて

令和5年12月14日（木）



1

現場視察・ヒアリングの御報告

2

ガイドブックについて

1

現場視察・ヒアリングの御報告

総合型地域スポーツクラブ
NPO法人スポネット弘前

公益財団法人
日本ゴルフ協会

株式会社
アイエイアイ

石川県白山市

千葉県柏市

大阪府吹田市立
健都ライブラリー

BOAT KIDS PARK
Mooovi (モーヴィ) 戸田

1. 総合型地域スポーツクラブNPO法人スポネット弘前

取組概要

- ✓ 地域の総合型地域スポーツクラブとして、**全ての住民が「いつでも、どこでも、だれでも」参加できる**スポーツ環境整備を目指し、指定管理を担うスポーツ施設や、廃校の利活用を通じ、子供や幅広い世代を対象とした様々なスポーツ教室、サークル活動、イベントを定期的に実施。
- ✓ また、市の商業施設の一部を指定管理し、**子供の安全な遊び場づくり**とともに、**高齢者の介護予防や健康寿命の延伸に向けた高齢者向けのスポーツ教室も実施**しており、世代を越えた地域の交流とスポーツ無関心層も自然とスポーツを行う環境整備を行っている。

成果の要因・工夫のポイント

- ✓ 地域の「**スポーツをしたいけれどできていない人**」が、「いつでも、どこでも、だれでも」参加できる居場所づくり・コミュニティづくりを行うという目標を実現するために、**常に最終的な達成したい姿の確固としたビジョンを持ち**、スポーツや交流イベント等の様々な活動を企画・実施している。
- ✓ 商業施設内の同じフロアで、幼児・親子向けのイベントから高齢者のトレーニング教室まで行っており、**多世代交流が実現**できているほか、「スポーツ施設」ではなく商業施設や公共施設でスポーツイベントを行うことで、**スポーツに無関心な方も自然と取り込む工夫**がなされている。
- ✓ **楽しむことを最優先**でスポーツ教室・活動に取り組んでおり、運動の得手不得手にかかわらず、**スポーツを愛好する幅広い世代が気軽に集まり、心からスポーツを楽しむことのできる場**となっている。

今後の課題

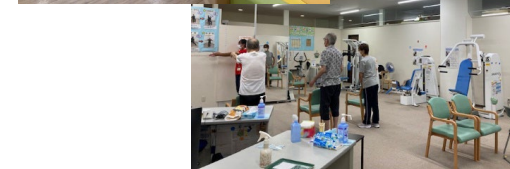
- ✓ 廃校を活用したスポーツ活動は、地域の農家の協力を得ることで自由な活動を行うなど、同クラブのみならず**様々な分野の関係者と連携**することで、取組のすそ野拡大につながっている。
- ✓ 高齢者トレーニング教室は、人数や参加期間が限定されており、**規模の拡大に課題**があるほか、健康で活動的な高齢者が主な対象となっているため、**今後のターゲット層の拡大**を期待する。
- ✓ 市の指定管理者であるため、教室やイベント等を行ううえで**行政との連携をどのように進めるか**が課題。また、廃校を活用した取組では、**財政面で厳しく、クラブ側の負担も大きくなっている**。

<総合型地域スポーツクラブNPO法人スポネット弘前>

【人口】162,291人 (R5.8)

【面積】524.12km²

【特色】弘前市は青森県の西南部に位置し、山々に囲まれた平野部には県内最大の流域面積を持つ岩木川が北流。肥沃で広大な津軽平野は県内屈指の穀物生産地域を形成しており、周辺部の小高い丘陵地帯には県の基幹農産物であるりんごの約4割を生産する樹園地が広がる。樹園地を取り巻くように山林地帯が伸び、緑豊かな自然環境に恵まれている。



2. 公益財団法人 日本ゴルフ協会

取組概要

- ✓ 毎年9月の国の「健康増進普及月間」に合わせ、『**ゴルフ健康週間**』として地域住民の方が健康の維持増進のために**ゴルフを始める・続ける・復帰するきっかけとなるようなプログラム**や、大会会場において**健康に関する様々なイベント**を実施。

- ✓ ゴルフを通じた健康寿命の延伸やコミュニティづくりの「きっかけ」とするために、ゴルフのみならず健康についても学ぶことのできる『**JGA WAG(ウィズ・エイジングゴルフ)スクール**』プログラムを作成し、地方自治体とも連携のうえ全国へ普及・展開。

成果の要因・工夫のポイント

- ✓ 競技力向上に重点を置く競技団体も多い中、同協会では**定款を変更してゴルフ振興に取り組むことを定款の中で定め、競技の普及・振興を重要施策として位置づけて**おり、「ゴルフ振興推進本部」を設置して議論するなど、ゴルフ競技のすそ野拡大に組織として力を入れている。

- ✓ WAGスクールでは、ゴルフの技術や知識のみならず、ストレッチの方法や健康に関する知識等の習得もプログラムの中に組み入れ、**シニア世代の健康増進に資する**取組となっているほか、コミュニティづくりにより孤独・孤立の防止や地域振興への寄与など、様々な効果を生み出している。

- ✓ ゴルフ振興推進本部の下に『**ゴルフと健康部会**』を設置し、医学の専門家や全国の地区連盟等とゴルフと健康に関して定期的な検討や情報共有を図ることで、取組の促進が図られている。

- ✓ ゴルフが認知機能や、病気の予防等にもたらす効果等について、**国内外の研究データを活用しエビデンスに基づいて示す**ことで、ゴルフへの参加・継続の促進を図っている。

今後の課題

- ✓ WAGスクールは現状参加者が十分に集まらないことも多く、**周知方法や地方公共団体との連携等で今後改善していく必要がある**。

- ✓ ゴルフを通じた健康増進の取組は始動したばかりであり、今後は**ゴルフが人々にもたらす中長期的な効果も含め分析して効果を示し**、国民のゴルフ参画を促進していくことに期待。

< (公財) 日本ゴルフ協会 >

【創設】1924 (大正13) 年10月

【所在地】東京都中央区八丁堀

【概要】日本のゴルフ界の統括団体であり、ゴルフの普及振興、アマチュアリズムに則したゴルフ精神の正しい順守、ナショナルハンディキャップ制度の実施、公式競技の開催、ゴルフ・ルールとエチケットマナーの正しい普及などに努め、ゴルフの健全な発展と普及を図り社会に貢献している。

日本シニアオープンゴルフ選手権会場でのイベント



WAGスクールの様子

3. 株式会社アイエイアイ

取組概要

- ✓ 2013年のJリーグ清水エスパルスとのパートナーシップ、清水日本平公園球技場ネーミングライツ取得をきっかけに、**地域の障害者スポーツ団体（サッカー）との交流**が始まり、**障害者スポーツが抱える課題の解決**、サッカーを通じた**地域の活性化への貢献**から企業支援を開始。
- ✓ 障害者サッカー（パラフットボール、ブラインドサッカーほか）の普及・活動として、**大会開催、ジョイスティック型ミニロボの製作・提供、ブラインドサッカー用フェンスの購入（貸出、運搬と保管）、フェンス用バナーの製作**など、多岐にわたる支援を実施。さらに、今後、自社敷地内に**建設予定のパラフットボール優先使用フットサル場**を通じて、地域との連携を進める。

成果の要因・工夫のポイント

- ✓ 企業活動で得た**利益を地域に還元して文化をつくる・ささえる**という理念の下、経営者が障害者スポーツへの支援を地域貢献の事業として位置づけて推進。
- ✓ パラスポーツを新たにはじめたいという希望を叶えるには、**地域単位でのスポーツ団体による細やかな支援**が不可欠。**必要な財源の確保**、それらが**持続的に回る仕組みづくり**は、支援団体や支援者に委ねず、**企業も考えるべき課題**としての意識が強い。
- ✓ **自社のロボット技術の有効活用**として、**障害のある者となない者が一緒に楽しむ空間・時間**が作れるようジョイスティック型ミニロボを開発・普及に取り組んでいる。
- ✓ 建設予定のフットサル場は、実際にパラスポーツを体験してもらえる場であり、**障害の有無にかかわらず誘引できる施設を目指し設計している**。また、ミニロボに関わった子どもたちがその後、自社でロボット作成をするために就職するケースもあるなど、**企業の人材確保**にもつながっている。

今後の課題

- ✓ パラフットボール等の普及において**一企業の取組には限界**があり、障害者スポーツの振興として地方大会や全国大会を実施できる規模に**成長させるには行政の推進・協力が不可欠**であり、パラフットボール普及・拡大の実現に向けて連携に取り組む。
- ✓ 同様に**障害者スポーツを支援したい企業**が増えていくには、**企業と団体の相互ニーズのマッチングが肝要**であり、第三者を含むコンソーシアムを通じた**マッチング機能の確立**が望まれる。

<株式会社アイエイアイ>

【設立】 1976年
【所在地】 静岡県静岡市
【売上高】 345億円（22年12月期）
【従業員数】 1,356名（23年7月現在）
【事業内容】 小型産業用ロボットの開発・設計・製造・販売、新しい農業技術の開発(エコファーム部)。障害者スポーツ支援の推進体制：広報課、総務課、ミニロボ事業推進室。



(上)「ブラインドフットボールフェスティバル」
(左)パラフットボール体験会
(右)体験会参加者によるブラインドサッカー用フェンス運搬模様



ジョイスティック型ミニロボ体験会

同社開発の標準ミニロボとジョイスティック型ミニロボ



4. 石川県白山市

取組概要

- ✓ 地域の医療機関・介護事業所と連携し、65歳以上の高齢者の認知機能チェックを行うとともに、高齢者が身近な場所で安全かつ効果的な運動を習慣的に実施できるよう、医療機関併設スポーツ施設等において医学的根拠に基づいたプログラムによる運動教室や、デイサービスにおいて運動プログラムを実施し、**認知機能(あたま)、身体機能(からだ)の維持向上**を図る。
- ✓ 有識者による**事業プログラム認証委員会を設置し、運動・栄養プログラムの認証や、事業の検証や効果判定、評価**を行うほか、認知機能チェックで基準値以下の場合は、保険診療による精密検査に繋げており、**医師と連携し早期に適切な治療に繋げる体制を構築**。

成果の要因・工夫のポイント

- ✓ 医療機関で認知機能のチェックテストを受検した市民に、**認知症予防の観点から運動教室の案内を行うことで、「運動・スポーツ」ではなく「認知機能」を切り口とし、無関心層を含めて運動・スポーツの実施促進**につなげられている。
- ✓ 医師や大学の有識者等で構成する事業の認証委員会で認証されたプログラムを運動教室等に取り入れ、**医学的知見に基づいた効果的なプログラムを参加者に提供**できているほか、運動のみならず栄養や体力についての講義も取り入れ、**参加者の健康意識向上**につなげている。
- ✓ 市が医師会に定期的に進捗報告や相談を行うほか、行政内部では**スポーツ部局、介護・福祉部局、健康部局が連携**しており、事業の継続とブラッシュアップにつながっている。
- ✓ **介護施設とは思えない空間づくりを演出**する市内の介護事業所では、トレーニング器具を設置して利用者の運動を促すとともに、医師や運動指導士の協力の下**自身の身体の状態についてアセスメント(評価)を行うプログラムを導入**し、利用者の意識の変化や行動変容を促している。

今後の課題

- ✓ 運動教室への参加は基本的に個人の主体性に委ねられているため、**運動・スポーツや認知症予防等に関心のない健康無関心層の高齢者に対し、いかにアプローチするか**が課題。
- ✓ 行政主体で行う運動教室は、定員や場所、形態が限られており、集団で運動を継続したい参加者や遠方に住んでいる方の機会の確保など、**個々のニーズに応じた取組の拡充**が検討課題。

<石川県白山市>
【人口】112,679人 (R5.9)
【面積】754.93 km²
【特色】2005年に1市2町5村の合併により誕生し、面積は石川県内最大。白山国立公園や、県内最大の流域を誇る手取川、白砂青松の日本海など、山・川・海の豊かな自然に恵まれた地域であり、ジオパーク活動も推進。将来都市像「健康で笑顔あふれる元気都市 白山」の実現に向けたまちづくりに取り組んでいる。



市内の医療機関における認知機能チェック



医学的根拠に基づいた運動プログラム



運動教室前後の認知機能及び体力測定

取組概要

- ✓ 柏市では、**約四半世紀にわたり、複数の部門で市民の健康につながる取り組み**を実施。特に、世代を問わず取り組むことができる**ウォーキングや、運動などのグループ活動**については、それぞれが行いやすいタイミングで、自ら継続的に取り組むことができるよう、**市がきっかけづくりや自主的な活動の後押し**を目指している。

健康づくり：ウォーキングの推進

- ① **市民と協働で進める健康と福祉のまちづくり** (1997年～)
- ② **「歩くことが好きな市民」づくり**
(定期的なウォーキング講座、ウォーキンググループの組織化支援など)
- ③ **ウォーキング推進事業**
(柏ウォーキングパスポート (2002年～) による健康づくりの動機づけ)

介護予防：フレイル予防の推進

- ① **フレイル予防・健康づくり出前講座**
(体操や体力測定など講師を派遣)
- ② **フレイルチェック事業** (講座など)
- ③ **かしわフレイル予防ポイント制度**
(ボランティア等のフレイル予防につながる団体活動への参加にポイントが付与。電子マネーとして利用可)

地域に根差したスポーツ活動の推進

- ① **スポーツ推進委員**
(スポーツを通じた地域コミュニティの形成、生きがいづくり)
- ② **スポーツドリームかしわ**
(市内の大型商業施設を活用した体験スポーツイベントを通じたスポーツ機会の創出。地域で活動する団体のつながりを形成)

<千葉県柏市>

【人口】434,156人 (R5.4)
 【面積】114.7km²
 【特色】鉄道は都心から放射状に常磐線及びつくばエクスプレスが、南北には東武アーバンパークラインが通る。道路は東京・茨城方面への国道6号や常磐自動車道、埼玉・千葉方面への国道16号が通る。昭和30年代高度経済成長期にベッドタウンとして発展。柏駅を中心に商業機能及び行政・文化機能等が集積した「中心市街地」があり、その周辺には「居住地」が、さらに手賀沼・大堀川・大津川などの自然が居住地に近接している

成果の要因・工夫のポイント

- ✓ 分野ごとに計画を策定し取組や目標を設定。高齢者の健康状態等の把握のため、**3年ごとに「健康と暮らしの調査」**を実施し、**事業成果と現状の推移を確認**。調査結果から**市の強みや、市民のスポーツへの取組状況**も確認。

| | |
|-------------------------------|------------|
| ●「スポーツの会への参加 (月1回以上)」の割合 | 5位 / 75自治体 |
| ● 運動機能低下者の割合 が少ない | 2位 / 75自治体 |
| ● 週に1日以上、運動やスポーツ をしている | 75.1% |
| ● 週に1回以上、ウォーキング | 66.6% |

※2022年調査

- ✓ 市民 (高齢者) の健康増進の取組として、各部門で**10～20年以上前から始めている取組や事業**が形を変えながら現在も継続。長期的な事業により、市民の**グループ組成や仲間づくり**など**積み上げられたコミュニティ**へとつながっており、事業を推進する上での市の強み。
- ✓ 事業効果の把握において、特に、**フレイル予防**については外部研究機関と連携した調査を基に、同機関が開発した**フレイルチェックによるデータと、フレイル予防ポイント制度の利用ユーザーの付与データと施策の効果等を分析**を予定など、エビデンスでの評価にも着手。

今後の課題

- ✓ スポーツ活動含め、健康寿命の延伸に向けた**現役世代の健康づくりの更なる推進**
- ✓ **組織改編による情報等の集約化**により、保健・福祉・スポーツ等の連携の加速。



出前講座の様様

(かしわフレイル予防ポイントカード)

活動参加で得られたポイントが電子マネーとして利用



企業や地域のプロスポーツチーム等との連携イベントの実施 (スポーツドリームかしわ)

6. 大阪府吹田市立健都ライブラリー

取組概要

- ✓ 北大阪健康医療都市（健都）に市民の健康づくりを支援する拠点として開設。**多世代が健康に「気づき」「楽しみ」「学べる」機能**を備え、図書館内には医療やスポーツに関する本を集めた「健康・医療・スポーツコーナー」や、血圧計や体組成計を備えた「健康応援コーナー」を設置。スポーツ関連の指定管理者の下、運動教室やスポーツイベント、**一斉アナウンスによりラジオ体操**等にも取り組む。

- ✓ 図書館前の健都レールサイド公園には、**地域の医療機関の協力・監修を受け、医学的知見に基づき、ウォーキングコースや健康遊具を整備し**、市民の健康づくりをサポート。

- ✓ **館内の一斉ラジオ体操**は、一定の日時に館内放送でラジオ体操を流し、利用者に呼びかけをして参加してもらうという、**全くコストがかからない取組**であり、**全国の図書館等で導入可能**。

- ✓ スポーツが目的ではなく図書館に来ている方が気軽に運動・スポーツに親しめるとともに、運動教室等スポーツが目的で来た利用者にとっても本に触れる機会になり、**相互にとってメリット**がある。

成果の要因・工夫のポイント

- ✓ 館内に設置した健康測定器具は、**利用者が自身の健康状態を知って健康意識を高める機会**となっているほか、隣接する公園の利用者を図書館にも誘導する仕組みづくりを行い、**スポーツ無関心層の方であっても自然と館内で運動・スポーツに取り込む**ような工夫がなされている。

- ✓ 公園内には病院等の監修のもと整備した健康遊具やウォーキングコースがあるほか、図書館内の健康医療情報講座を医療機関の協力の下開催するなど、**「健都」をコンセプトとしたまちづくりの一環として地域の医療機関と連携し**、利用者に質の高い事業を提供。

- ✓ 図書館という本来静かな場所でのラジオ体操は一定の配慮が必要。また、ラジオ体操や運動教室の参加者は、女性や高齢者に偏りがち。今後、スポーツ実施率が低くなっている**妊産婦や産後間もない世代を対象としたプログラム**を含め、拡大に期待。

今後の課題

- ✓ 2施設の融合により、図書関係の担当と運動関係の担当が分かれているため、窓口の分かりづらさや縦割りが課題。また、行政内でも、健康・医療を切り口に連携は進んでいるものの、**図書館や公園の運営においてスポーツ主管部局と今後の連携が進む**ことに期待。

<大阪府吹田市>

【人口】382,491人（R5.9）

【面積】36.09 km²

【特色】交通アクセスに優れており、現在も人口が増加。市内には学術機関も多く、5大学を有しており、学生数は府内で1位となっている。かつては「ビールと操車場のまち」と呼ばれ、自然豊かな万博記念公園は、市民が誇りを抱く憩いの場となっているとともに、ガンバ大阪の本拠地である市立吹田サッカースタジアムも建設され、市内外から多くの人を訪れている。



7. BOAT KIDS PARK Mooovi (モーヴィ) 戸田

取組概要

- ✓ ボートレース場を地域住民の方々が「身近な場所」に感じていただけるよう、Mooovi(あそび場)を設置・運営し、子供たちの健やかな身体づくりに貢献すると共に、ボートレース場が楽しく毎日でも行きたくなる場所、子供・家族の交流が自然と生まれる場所を目指す。
- ✓ あそび場は、子供の発達段階に応じた4つのゾーン（①高学年向けの高度な動きを必要とする「チャレンジゾーン」、②自然の素材を感じながら、屋内とは違った遊びが体験できる「アウトドアゾーン」、③幼児期の成長に必要な基本動作を引き出す仕掛けを盛り込んだ「アクティブゾーン」、④赤ちゃんが安心して全身で遊べる「ベビーゾーン」）に分かれており、保護者やスタッフと一緒に遊ぶことが出来る。令和5年からは陸上・体操教室など体験イベントも実施。
（1日平均人数：平日124名、土日祝日522名）※令和5年4月～10月末状況

成果の要因・工夫のポイント

- ✓ (株)ポーネルドとの協働により、豊富で専門的なノウハウを活用。ゾーン分けにより発達段階や子供たちの趣向に応じた運動遊びを提供することが可能となっており、質の高い子供の遊び場づくり・機会創出につながっている。
- ✓ プレイリーダーのほか、常に子供の遊びをサポートするスタッフが配置されており、(株)ポーネルドの研修を受講、また、子育て経験や保育士の資格等を持つスタッフが多数いることで、子供の安全な運動・スポーツ環境の確保や、親子間・子供間の交流の促進につながっている。
- ✓ Moooviの運営費用は、ボートレース事業の収益を活用しているため、安価で利用しやすいサービスを提供できたことで、多くの親子連れの家族が足を運ぶようになり、従来のボートレース場へのイメージが徐々に変化。地域住民向けのイベントも開催し、世代や性別を問わず多くの住民の参加もあり、Moooviを中心により開かれた施設へ変化している。

今後の課題

- ✓ 事業成果として、Moooviを活用した子供たちの運動習慣の変化など調査・分析は未着手。運営面では16時までの営業時間により、幼児を持つ共働き世帯の平日活用には不向き。
- ✓ 今後、レース場内での親を対象とした運動・スポーツの場づくりへの取り組み等、拡充に期待。

<Mooovi戸田>

【営業日時】ボートレース戸田 開場日の10:30～16:00（クール制）
【運営】戸田ボートレース企業団
【対象等】対象年齢 6ヶ月～12歳。
子供300円、大人300円（入場料含む）。90分入替制、LINE完全予約制。ボートレース場が地域住民の身近な場所となることを目指し、(株)ポーネルドと協働し、子供と家族の「あそび場」を場内で運営。戸田以外にも全国8カ所のボートレース場に設置されている。



発達段階に応じたゾーン
(チャレンジ、アクティブ、ベビー等)



陸上教室や体操教室、忍者体験などのイベント実施

2

ガイドブックについて

本日御議論いただきたい事項

- ✓ **ガイドブックの名称**
- ✓ **ガイドブックの骨子案**
- ✓ **ガイドブックの「具体的なアクションガイド」目次案**
- ✓ **ガイドブックの「具体的なアクションガイド」のフォーマット案**
 - ・ターゲット・事例ごとに作成したフォーマット案
 - ・取組事例のフォーマット案
 - ・東京都足立区で作成した場合の具体案
 - ・(参考) 第3期スポーツ基本計画に沿って作成した場合のフォーマット及び具体例

今後の進め方 (予定)

- ✓ 委員・事務局による具体的な執筆作業
- ✓ ガイドブックのブラッシュアップ
- ✓ ガイドブックの普及方法・広報ツールの検討

ガイドブックの名称（案）

- Sport in Life実現に向けたガイドブック
 - スポーツによる健康増進・共生社会の実現のためのガイドブック
 - 多様な主体のスポーツ参画促進に向けたガイドブック
 - 第3期スポーツ基本計画の実現に向けたガイドブック 等
- ※ その他キーワード（スポーツによる豊かな人生、スポーツ実施率向上 等）

ガイドブック骨子（案）

- | | |
|-----------------|--|
| 1. はじめに | ・ガイドブックの趣旨 |
| 2. ガイドブックの見方 | ・地方公共団体、民間事業者、スポーツ関係団体、保険者・医療機関等の対象毎の見方について |
| 3. 具体的なアクションガイド | ・視察・ヒアリングを踏まえたターゲット毎の具体的な取組方法 ・視察・ヒアリング先の取組事例 ・コラム |
| 4. 終わりに | ・現場視察・ヒアリングを踏まえた成果や課題 ・健康スポーツ部会委員からのメッセージ 等 |
| 5. 参考資料 | ・現場視察・ヒアリング報告書詳細版 ・第3期スポーツ基本計画との対応表 ・スポーツ審議会健康スポーツ部会委員名簿 等 |

| | | |
|-----------------------------|--|-----|
| I. 子供 (幼児) | <ul style="list-style-type: none"> ① まちづくりの推進における外部連携による幼児の運動習慣化 ② プロスポーツチームと連携したアクティブ・チャイルド・プログラムの取組 ③ 親子や地域住民がいつでも、誰でも、どこでもスポーツに親しめる環境の整備 ④ 地域資源を活用した子供のあそび場づくりと交流機会の創出 | コラム |
| II. 女性 | <ul style="list-style-type: none"> ① 他分野との連携と行動変容のエビデンスを活用した女性のスポーツ参画促進 ② 中高年の女性を対象としたエビデンスに基づくスポーツプログラムと医療との連携 ③ 幅広い世代の女性のニーズに応じたダンスフィットネスプログラムの提供 | コラム |
| III. 働く世代・ 子育て世代 | <ul style="list-style-type: none"> ① 地域の医科学センターにおけるアスリートの知見を活用した住民の健康増進 ② 産業連携組織におけるスポーツを通じた健康経営 ③ スポーツ関係企業におけるアプリ等を活用した従業員の健康増進 ④ 社内における就業時間中の運動・スポーツプログラム ⑤ 健診センターとの連携によるスポーツ及び健康づくりプログラムの提供 | コラム |
| IV. 高齢者 | <ul style="list-style-type: none"> ① キッズ健幸アンバサダーの養成とスポーツを通じた住民の健康づくり ② 医師会との連携による脳と身体の健康づくり ③ ウォーキング及び運動グループの形成を通じた住民のフレイル予防 ④ 頭と身体の健康づくりによる運動・スポーツを通じた認知症予防 ⑤ スポーツクラブにおけるリハビリテーションプログラムの提供 ⑥ スポーツ競技を通じた健康増進とデータを活用した競技振興 | コラム |
| V. 障害者 | <ul style="list-style-type: none"> ① 地域の障害者スポーツ振興のハブ機能を担うセンターの運営 ② 行政とスポーツ団体の連携による障害者スポーツに力を入れたまちづくりの推進 ③ 企業における障害者スポーツの普及支援と地域活性化 ④ 企業におけるインクルーシブルな競技大会を通じた共生社会の推進 ⑤ スポーツクラブにおける障がい児のスポーツ実施環境整備 | コラム |
| VI. 多様な 主体 | <ul style="list-style-type: none"> ① 図書館における運動・スポーツの取組を通じた住民の健康づくり ② 行政内部における研究機関の設置を通じた身体活動に関するエビデンス構築 ③ 多様な主体が無料で気軽に参加できる全国規模の定例ウォーキングイベント ④ ルールの工夫を通じた多様な主体がともにするスポーツの実現 ⑤ 健康都市宣言によるスマートウェルネスシティの実現 ⑥ スポーツ団体や企業と連携した市民のコンディショニングづくり | コラム |



見出し

事例に応じた具体的な見出しを設定。

第3期スポーツ基本計画の目標を簡潔に記載。

特に参照頂きたい対象を記載

目標

~~~~~の向上

第3期スポーツ基本計画に記載している[現状]をベースとして記載。

課題

- ~~~~~の傾向がある。
- また、~~~~~という課題がある。

具体的な取組

- ① ~~~~~の施策に取り組む。
- ② ~~~~~の工夫を行う。
- ③ ~~~~~との連携を行う。

1つの事例から導かれる具体的な取組について、詳細に記載。  
※委員による執筆を想定。

(参考) 第3期スポーツ基本計画の記載

- ✓ ~~~~~を目指す。  
[具体的施策]
- 国は、~~~~~。
- 地方公共団体は、~~~~~。

第3期スポーツ基本計画における該当箇所を、参考として抜粋。  
※取組事例が該当する記載を網羅的に抜粋する。

次ページで、1事例具体的な取組事例として掲載



#### 〇〇〇〇〇〇〇の取組

※詳細：p〇

<〇〇県〇〇市>  
【人口】〇〇人  
【面積】〇〇 km<sup>2</sup>  
【特色】~~~~~。

##### 取組概要

- ✓ ~~~~~を実施。
- ✓ ~~~~~に取り組む。

##### 成果の 要因・ 工夫の ポイント

- ✓ ~~~~~ができている。
- ✓ ~~~~~に取り組めている。
- ✓ ~~~~~が可能となっている。

##### 今後の 課題

- ✓ ~~~~~は今後の課題。

##### 委員所見

- ~~~~~。(〇〇委員)
- ~~~~~。(〇〇委員)

取組の写真

取組の写真

取組の写真



## 他分野との連携と行動変容のエビデンスを活用した女性のスポーツ参画促進

## 目標 女性がスポーツを実施しやすい環境整備と女性のスポーツ実施率の向上

## 課題

- 女性のスポーツ実施率は男性に比べて低く、若年女性については、スポーツの好き嫌い等の理由により、スポーツ実施時間が短い傾向がある。
- 女性については、運動不足や極端な痩せに伴う骨粗しょう症や妊娠中・産後の心身の健康悪化等の健康課題が顕在化している。

## 具体的な取組

- ① スポーツが他分野と連携することで、**スポーツに無関心な女性でもスポーツに親しめる工夫**を行い、地方公共団体の行政内部においても、スポーツ分野と他分野が連携して**スポーツ施策に取り組む**。
- ② スポーツ施設以外の公共施設を活用し、日頃運動・スポーツの習慣がない女性でも参画しやすいよう、**スポーツ実施のハードルを下げる工夫**を行う。
- ③ 地方公共団体と研究機関等が連携し、**行動変容を促すためのエビデンスの蓄積や効果・検証を行う**とともに、スポーツ無関心層やスポーツを継続する層など、**行動ステージに応じた施策**に取り組む。

(参考)  
第3期  
スポーツ  
基本  
計画の  
記載

- ✓ 隙間時間等に気軽にスポーツに取り組める環境づくりの推進や、従業員の健康づくりにスポーツを活用する民間事業者に対する支援等により、働く世代・子育て世代のスポーツ実施率向上を目指す。
- ✓ 女性のニーズや健康課題の解決が見込まれるスポーツについて普及啓発を行うとともに、環境整備を促進し、女性のスポーツ実施率の向上を目指す。  
【(1)多様な主体におけるスポーツの機会創出】  
[具体的施策]  
  - 国は、地方公共団体や民間事業者等に対し、女性がスポーツを実施する意欲を向上させるための取組や女性のスポーツと健康との関係、女性がスポーツをしやすい環境の整備について、地域のスポーツクラブや研究機関、医療機関等の関係団体間で情報を共有、連携して普及啓発や環境整備等を行えるよう支援する。
  - 国は、働く世代・子育て世代に対して、通勤時間や休憩時間等を活用して、今までよりもプラス10分の運動習慣づくりを促す。
- ✓ 女性のニーズや健康課題の解決が見込まれるスポーツ実施について、個人や関係団体への普及啓発を行うとともに、女性がスポーツをしやすい環境整備等を促進し、女性のスポーツ実施率を向上させる。  
【(8) スポーツを通じた共生社会の実現】



※詳細：p〇

## 読書とスポーツを掛け合わせ、スポーツに「ちょっと親しんでもらう」取組

### 取組概要

✓ 文化・読書・スポーツ分野計画に基づき、従来型の分野別のアプローチだけでなく、「**読書×スポーツ**」「**読書×文化**」「**スポーツ×文化**」など、それぞれの施設利用者が異なる分野への関心・行動につながる働きかけを通じて、**新たな分野に親しむ人を増やす**取組を実施。

✓ 読書や文化芸術に親しむ人が、運動・スポーツにも「**ちょっと親しんでいただく**」ことを目的とした「**ちよいスポ**」では、おはなし会の時間に親子でベビーヨガやバランスボールの体験や、絵本の動きをまねる体操や簡単なストレッチなどのプログラムを実施。

✓ **スポーツ、文化、読書という3分野が連携し**、それぞれの計画も「**楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる**」という**共通の理念**の下、統一感を持って策定。行政内部でも3分野連携担当課長が横串を指して指揮をとるほか、区の審議会も3分野の有識者で構成・議論を行うなど、緊密に連携。**スポーツと文化・生涯学習等との連携は新たに進めるべき切り口**。

✓ 体育館などで本格的に取り組むのではなく、「**ちょっと親しむ**」を大切にすることで、**参加者の実施ハードルを下げるとともに、潜在的無関心層を取り込んでいる**。

✓ **EBPMの推進に積極的に取り組み**、関係機関とも連携のうえ、**エビデンスを蓄積**。また、行動経済学を活用し、無関心期から維持期まで**行動ステージごとに分けてアプローチ**することで、**行動変容に繋げている**。

### 成果の要因・工夫のポイント

### 今後の課題

✓ イベントに足を運ぶ方々に対し、「**ちよい足し**」で運動・スポーツに参加している反面、**イベント等に全く参加しない層へのアウトリーチをどのように進めていくか**は今後の課題。

### 委員所見

• 部署横断型の取組による新たな仕組みづくりにチャレンジするとともに、EBPMの推進や各種理論の活用に加え、事業効果を検証したエビデンスに基づく事業展開を重視し、PDCAサイクルを実践している。(松永委員)

### <東京都足立区>

【人口】690,114人 (R5.1)

【面積】53.25 km<sup>2</sup>

【特色】23区の最北端に位置し、四方を川に囲まれ、荒川をはじめとする水辺や公園の緑など、豊かな自然環境を有する。近年は、つくばエクスプレスや日暮里・舎人ライナーの開通、区内を縦横にめぐるコミュニティバスの整備などにより交通の利便性も高まり、大規模集合住宅開発が大きく進んだことから、総人口は69万人に到達。

図書館のバランスボール常設席



図書館におけるちよいスポ特集コーナー



図書館の幼児室におけるエクササイズ



見出し

第3期スポーツ基本計画の目標を簡潔に見出しとして設定。

第3期スポーツ基本計画に記載している[現状]をベースとして記載。

特に参照頂きたい対象を記載

課題

- ~~~~~の傾向がある。
- また、~~~~~という課題がある。

第3期スポーツ基本計画における施策目標や具体的施策を抜粋。  
※原則として[具体的な施策]は1文のみ抜粋。

第3期スポーツ基本計画の記載

(1) 多様な主体におけるスポーツの機会創出

① ~~~~~の向上

[今後の施策目標]

✓ ~~~~~を目指す。

[具体的施策]

➤ 国は、~~~~~。

具体的な取組

① ~~~~~の施策に取り組む。

② ~~~~~の工夫を行う。

③ ~~~~~との連携を行う。

複数事例から導かれる具体的な取組について、総論的に記載。  
※委員の執筆を想定。

次ページで、計画に紐づく複数事例を具体的な取組事例として掲載

## 女性のスポーツ実施率の向上

地方公共団体



民間事業者



スポーツ関係団体



保険者・医療機関等



## 課題

- 女性のスポーツ実施率は男性に比べて低く、若年女性については、スポーツの好き嫌い等の理由により、スポーツ実施時間が短い傾向がある。
- 女性については、運動不足や極端な痩せに伴う骨粗しょう症や妊娠中・産後の心身の健康悪化等の健康課題が顕在化している。

## (1) 多様な主体におけるスポーツの機会創出

## ③ 女性、障害者、働く世代・子育て世代のスポーツ実施率の向上

[今後の施策目標]

- ✓ **女性のニーズや健康課題の解決が見込まれるスポーツについて普及啓発を行うとともに、環境整備を促進し、女性のスポーツ実施率の向上を目指す。**

[具体的施策]

- 国は、地方公共団体や民間事業者等に対し、女性がスポーツを実施する意欲を向上させるための取組や女性のスポーツと健康との関係、女性がスポーツをしやすい環境の整備について、地域のスポーツクラブや研究機関、医療機関等の関係団体間で情報を共有、連携して普及啓発や環境整備等を行えるよう支援する。

第3期  
スポーツ基本  
計画の  
記載具体的  
な取組

- ① スポーツが、文化や生涯学習等の他分野と連携することで、スポーツに無関心な女性や子育て等で多忙な女性でも、スポーツに親しめる工夫を行う。地方公共団体の行政内部においても、スポーツ分野と文化・生涯学習等の他分野が連携してスポーツ施策に取り組む。
- ② 運動・スポーツの習慣がない女性に対しては、スポーツ施設以外の施設も活用するなどしてスポーツ実施のハードルを下げる工夫を行ったり、意欲の高い女性に対しては、ボディメイク等の女性のニーズに応じたプログラムを用意したり、継続期の女性に対しては、ヘルスリテラシーを高める取組を行ったりする等、女性のターゲット層に応じた取組を行う。
- ③ 地方公共団体や民間事業者、研究機関、医療機関等が連携し、エビデンスに基づいたプログラムを作成するとともに、エビデンスの蓄積や効果・検証を行う。